

薩創建之地也。本尊者觀音大士也。靈驗甚深而國人無不敬信也。此時院主者定賢律師也。元亨元年辛酉四月十八日夜半定賢律師夢、觀音菩薩放眉間白毫光而來云。汝未知耶。有釋迦牟尼佛第五十四世善知識而、於當國酒井洞谷山出世開法矣。以此寺讓與彼師、長爲佛法紹隆之靈場爲勅願所。言訖而失處在矣。洞谷開山瑩山和尚亦在永光室。坐禪困睡之間、觀音大士相好端嚴而來云。以舊基與師。道了引師至二院。時院主及大衆迎接焉。師入門語云。總持一門八字打開矣。然是院中有二階樓門、門上安置大般若經并放光菩薩像。蓋是放光般若之謂乎。放光菩薩、常放光明、故稱放光菩薩。其外佛閣僧房不知其數矣。師夢覺爲奇異。爾後師有所由至禪比庄。定賢律師與師對談、以所夢告師。師亦以靈夢語律師。恰如合符節。故以院讓于師、師即住持。次歲八月下旬、今上皇帝以十種疑問徵詰于師。師逐一答之、大懷皇情。即寺號總持爲勅願所、修造伽藍以爲禪刹。行房書額以寄附矣。斯時皇后懷妊、御產不安。祈誓放光菩薩、忽有宮中種々靈異、

無恙王子誕生也。故上從一人下至萬民無不尊崇焉。是皆應瑞夢也。門人等記其大略、以爲開闢緣起矣。
元亨三年亥年六月吉日

謹書 紹 碩 在判

(本文書は峨山紹碩の作に係る。鳳至郡總持寺の緣起なりといふ。然れどもその内容甚だ怪しむべく、行房書額のことも元亨元年九月十四日の條に見え、ここに同二年に在りとするものと齟齬す。何れにしても假作たるべし。)

十月九日。瑩山紹瑾、鹿島郡永光寺所藏の文書法文を作る。

【永光寺文書】 鹿島郡

一九〇

洞谷文書注文

- 一、洞谷山本主平氏女寄進狀一通。
- 一、付惣領利忠放券安堵御下文一通。
- 一、付與三章兼放券安堵御下文一通。
- 一、利忠賣券一通。同避狀一通。

一、章兼賣狀一通。同避狀一通。

都合七通

其外具書捌通。海野三郎(信直)押野又次郎狀俱三通。

一、洞谷山盡未來際置文一通。

一、湊五段七田寄進狀一通。入常住僧食

一、安奴(安奴)三段三十三束菊田寄進狀一通。入塔頭奉供都合廿一通。

右注文如件。

元亨三年癸亥十月九日

紹瑾記 在判

加往持職讓狀并寺々遺付用心之狀壹通。

十月九日。瑩山紹瑾、鹿島郡永光寺の寄田注文を作る。

【永光寺文書】 鹿島郡

一九一

定置 在判

洞谷山寄田注文

一、本山中田貳段 本文書ニアリ

一、性禪々尼みなとの寄進田五百七十疇

てらの常住物たるべし。

一、性禪々尼の越中のあぬの寄進田三段三十三(安奴)かり

塔頭の奉供田によるなり。

先元亨三年十月九日記之

在判

一、圓意房の寄進參段田一宮免田金丸田也(四百五十)所當五百文也

一、性禪々尼の沒後新寄進田壹段(在所安奴)寄塔頭

十月九日。瑩山紹瑾、その修練せる遺跡八ヶ寺

の置文を作る。

【永光寺中興雜記】

一九二

山僧遺跡寺々置文記之

一、洞谷山者、嗣法人々連續而可往持興行。頗是五老遺跡之際、諸山之中可崇重事、置文委之。

一、山中圓通院者、爲瑩山今生祖母明智優婆夷之所建立也。依幼稚養育之恩深、而立二院安觀音、爲本願主

本檀那祖忍大姊永年偃息行道之道場處。山門住持之門人

爲二大事加修理興行、可哀愍覆護。是則當山之大恩所

也。敷地畫圖并緣起在別紙、祖忍持之。